

2022年3月期第1四半期
決算説明資料

2021年8月25日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2022年3月期第1四半期決算
2. 2022年3月期業績見通し
3. 環境経営への取組み
4. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2022年3月期第1四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2022年3月期第1四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2021年3月期 第1四半期	構成比 (%)	2022年3月期 第1四半期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,596	100.0	4,821	100.0	+224	+4.9
売上原価	2,891	62.9	2,873	59.6	▲18	▲0.6
売上総利益	1,704	37.1	1,947	40.4	+243	+14.3
販売費及び一般管理費	1,392	30.3	1,498	31.1	+105	+7.6
営業利益	312	6.8	449	9.3	+137	+43.9
経常利益	328	7.1	556	11.5	+228	+69.6
親会社株主に帰属 する四半期純利益	164	3.6	329	6.8	+164	+100.5

増収増益

売上高

売上高増加の主な要因

- ・ポンプ事業は日本、米国、東南アジア市場の回復が遅れているものの、中国市場の主にケミカル向けが順調に回復している。
- ・電子部品事業は、自動車業界の回復傾向に伴い需要が回復。

営業利益

営業利益増加の主な要因

- ・ポンプ事業における中国市場の売上増加や電子部品事業の収益改善

親会社株主に帰属する

四半期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益増加の主な要因

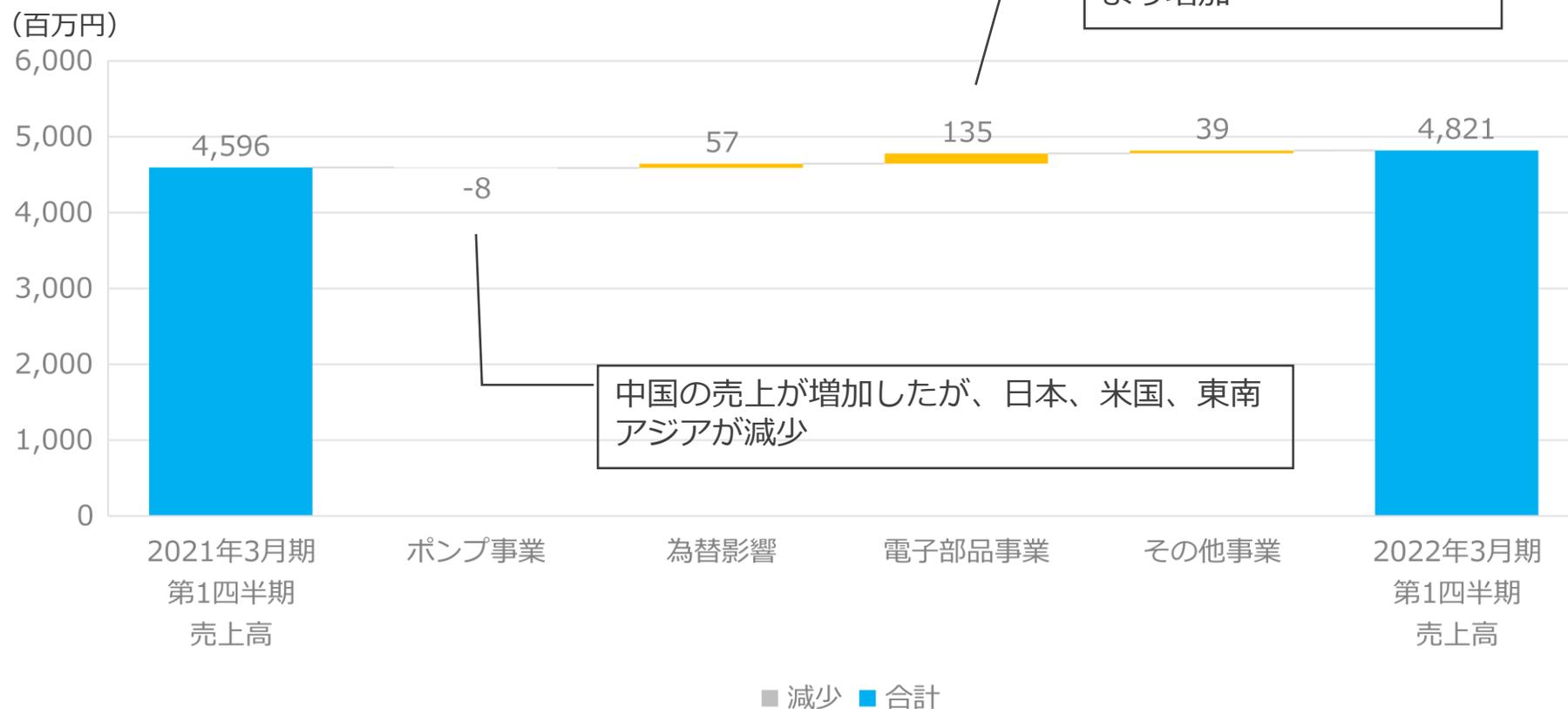
- ・営業利益の増加に加え為替差益等による経常利益増加

※ 2021年6月10日付開示の「当社製品の性能試験に係る不適切行為について」に関して、現在出荷先のお客様と対応費用の負担等に係る協議を行っており、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であることから、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

売上高増減分析



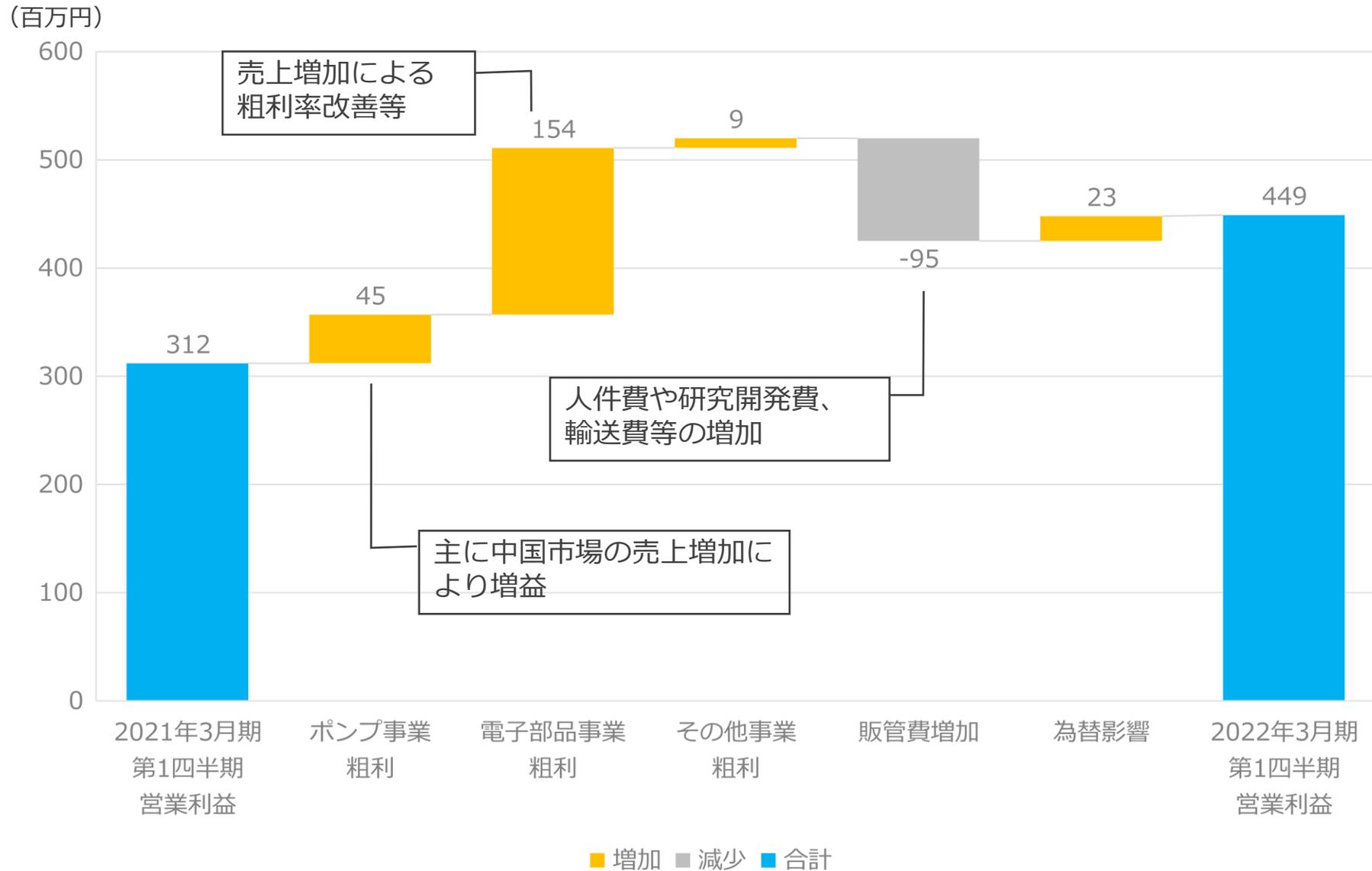
期中平均レート推移	2021年3月期第1四半期	2022年3月期第1四半期
USドル	108.9円	106.1円
人民元	15.6円	16.4円
ユーロ	120.1円	127.8円



自動車関連需要の回復により増加

中国の売上が増加したが、日本、米国、東南アジアが減少

営業利益増減分析



種類別セグメント（売上高・営業利益）



(百万円)		2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	4,230	4,279	+49	+1.2%
	営業利益 (営業利益率)	428 (10.1%)	408 (9.5%)	▲20	▲4.8% (▲0.6%)
電子部品事業	売上高	268	403	+135	+50.4%
	営業利益 (営業利益率)	▲131 (-%)	24 (6.1%)	+156	- (—)
その他	売上高	98	137	+39	+40.5%
	営業利益 (営業利益率)	15 (15.4%)	16 (12.2%)	+1	+11.1% (▲3.2%)
合計	売上高	4,596	4,821	+224	+4.9%
	営業利益 (営業利益率)	312 (6.8%)	449 (9.3%)	+137	+43.9% (+2.5%)

ポンプ事業 所在地別売上高



- 日本・前期後半からの受注減速の影響を受け減収
(収益認識基準の見直しによる売上への影響額▲78百万円)
- 欧米・米国はケミカル向けや冷凍機向けが増加したものの、前期堅調であった原子力向けの反動減等により減収
- アジア・中国はケミカル向けが順調に回復していることに加え、前期1Qのロックダウンによる反動増もあり増収

(百万円)		2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	増減	増減率
日本	売上高	1,771	1,515	▲256	▲14.5%
欧米	売上高	1,213	1,076	▲137	▲11.3%
アジア	売上高	1,245	1,687	+442	+35.6%
合計		4,230	4,279	+49	+1.2%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

●主にケミカル機器用が増加

(百万円)	2021年3月期 第1四半期	比率 (%)	2022年3月期 第1四半期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	2,143	50.7	2,199	51.4	+56	+2.6
冷凍機・空調機器用	404	9.6	388	9.0	▲16	▲4.1
電力用（車両用）	113	2.7	140	3.3	+26	+23.6
電力用（地上用）	131	3.1	111	2.6	▲20	▲15.3
定量注入機器	134	3.2	157	3.7	+23	+17.1
その他ポンプ	56	1.3	21	0.5	▲35	▲62.2
メンテナンス	1245	29.4	1,261	29.5	+15	+1.2
合計	4,230	100.0	4,279	100.0	+49	+1.2

種類別受注高・受注残高



- ポンプ受注は中国が堅調だが、前期駆け込み需要があった米国の反動減等により横ばい

(百万円)	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	4,683	8,755	4,670	8,092	▲13	▲662
電子部品事業	273	115	390	150	+117	+35
その他	112	102	102	108	▲10	+6
合計	5,068	8,973	5,162	8,351	+93	▲621

貸借対照表のポイント



(百万円)

資産の部	2022年3月期 第1四半期	前期末増減
流動資産	24,976	+91
現預金	12,953	+377
受取手形、売掛金 及び契約資産(※1)	7,084	-
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	4,611	+304
固定資産	10,738	▲8
有形固定資産	8,388	+20
無形固定資産	325	▲53
投資その他の資産	2,023	+24
資産合計	35,714	+82

負債の部	2022年3月期 第1四半期	前期末増減
流動負債	5,629	▲87
支払手形・ 買掛金	2,152	+283
短期借入金	300	▲20
未払法人税等	303	+4
その他	2,874	▲355
固定負債	1,113	+33
純資産	28,971	+136
(内自己株式)(※2)	(▲1,326)	(▲325)
負債・純資産合計	35,714	+82

※1 当第1四半期連結会計期間より収益認識会計基準等を適用しており、前連結会計年度については新たな表示方法による組替えを行っていないため前期末増減金額を記載しておりません。

※2 2021年3月8日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期累計期間において自己株式248,300株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が325,711千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が1,326,630千円となっております。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2022年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件



セグメント別		
ポンプ事業	日本	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の受注減少により期首受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の業績回復に伴う設備投資が下期以降に本格回復するものと見られるが、売上につながるのは来期以降になる見込みであり今期売上は微減見込み ・利益は、技術開発センター移転費用計上、防爆取得費用等の研究開発費用の増加等により減益見込み ・不適切な性能試験に係る影響は考慮していない
	欧米	<ul style="list-style-type: none"> ・需要回復の兆しは見えつつあるものの、期首の受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の設備投資の本格的な回復が下期以降になると見込んでおり、減収減益を見込む
	アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・中国経済の回復により主要顧客であるケミカル業界の新規設備投資も回復してきていることから、中国が牽引し増収増益を見込む
電子部品事業		<ul style="list-style-type: none"> ・半導体不足による自動車業界の生産調整等の懸念はあるが、自動車関連需要は回復傾向にあることから増収増益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)

1US \$ =107.0円、1€=128.0円、1元=16.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円
 (前期実績レート: 1US \$ =106.8円、1€=121.9円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円)

今期計画（業績見通し）



- 売上は、ポンプ事業において、中国市場の回復を主たる要因として増収見込み
- 利益は、前期利益を押し上げた特殊要因（※）の剥落や日本における技術開発センター移転、研究開発費の増加、中国における人件費増等により減益見込み

(百万円)	2021年3月期 (実績)	構成比 (%)	2022年3月期 (計画)	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	19,910	100	20,900	100	+990	+5.0
売上原価	12,422	62.4	12,960	62.0	+538	+4.3
売上総利益	7,487	37.6	7,940	38.0	+453	+6.1
販売費及び一般管理費	5,224	26.2	6,260	30.0	+1,036	+19.8
営業利益	2,262	11.4	1,680	8.0	▲582	▲25.7
経常利益	2,513	12.6	1,830	8.8	▲683	▲27.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,324	11.7	1,280	6.1	▲1,044	▲44.9

※ 前期特殊要因：前期は、中国現地法人の修理子会社2社清算により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費に391百万円戻入、法人税等に469百万円戻入）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



- 「その他」においてブレーキモータが生産終了となるため売上減少

(百万円)		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想)	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,237 (12.5%)	1,590 (8.4%)	▲647	▲28.9% (▲4.1%)
電子部品事業	売上高	1,584	1,620	+36	+2.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲41 (-%)	70 (4.3%)	+111	— (—)
その他	売上高	430	280	▲150	▲34.9%
	営業利益 (営業利益率)	67 (15.6%)	20 (7.1%)	▲47	▲70.1% (▲8.5%)
合計	売上高	19,910	20,900	+990	+5.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,262 (11.4%)	1,680 (8.0%)	▲582	▲25.7% (▲3.4%)

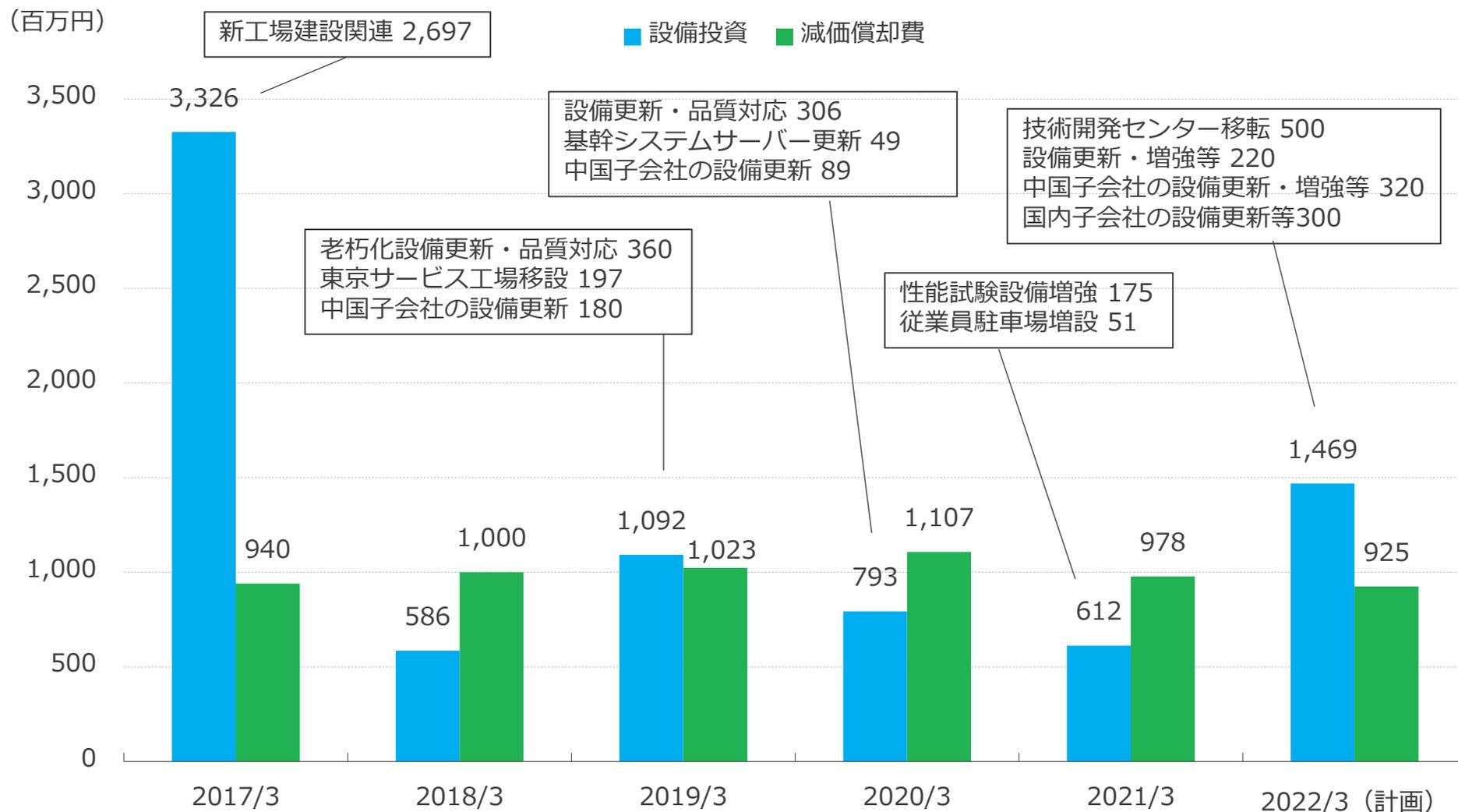
ポンプ事業 所在地別売上高見通し



(百万円)		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想)	増減	増減率
日本	売上高	6,956	6,580	▲376	▲5.4%
欧米	売上高	4,460	4,230	▲230	▲5.2%
アジア	売上高	6,477	8,190	+1,713	+26.4%
合計	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

設備投資・減価償却費計画



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当

安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得

市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (予定)
年間配当金	36円	36円	36円
配当性向(連結)	※22.5%	※30.5%	54.1%

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得

※ 2021年3月8日に8億円(80万株)上限の自己株式取得を発表



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

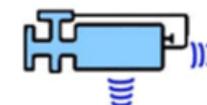
3. 環境経営への取組み



株式会社 帝国電機製作所

主力製品であるキャンドモータポンプ

- 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- 運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

大気汚染対策

製油所の脱硫装置

大気中に有害物質である硫黄酸化物を放出させないために、製油所では原油に多く含まれた硫黄分を低減する脱硫装置を使用しています。

オゾン層保護

温暖化係数の低い安全なCO₂を冷媒とする冷凍装置

家電や自動車等から回収されたフロン分解処理設備

空調機器や冷凍機器等で使用する代替フロン製造装置

火力発電所の排ガスからCO₂を回収するプラント

土壌汚染対策

環境保全型農業製品の製造装置

土壌汚染の防止や安全な農作物の生産を目指す環境保全型農業に適した、肥料や農薬等の農業製品の製造には、高精度な設備が求められます。

有害物質を含む液体が移送されるプラント

液漏れ＝土壌汚染になることから「完全無漏洩」であることが土壌汚染対策となります。

テイコクの TEIKOKU キャンドモータポンプ

水質汚濁対策

工業排水処理用施設で使用される污水処理装置

下水汚泥燃料化設備

海に流出した汚泥を回収し、含まれている炭素成分を取り出し燃料化します。

上下水道の浄化システム用オゾン発生装置

再生可能エネルギー

下水処理場の下水汚泥ガス化発電システム

太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置

地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置

パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

バイオ燃料

市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント

LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

4. 参考資料



株式会社 帝国電機製作所

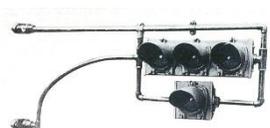
当社概要と沿革



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

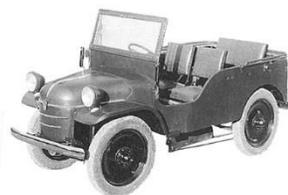
1958年
A型モータ
を試作

1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収

2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

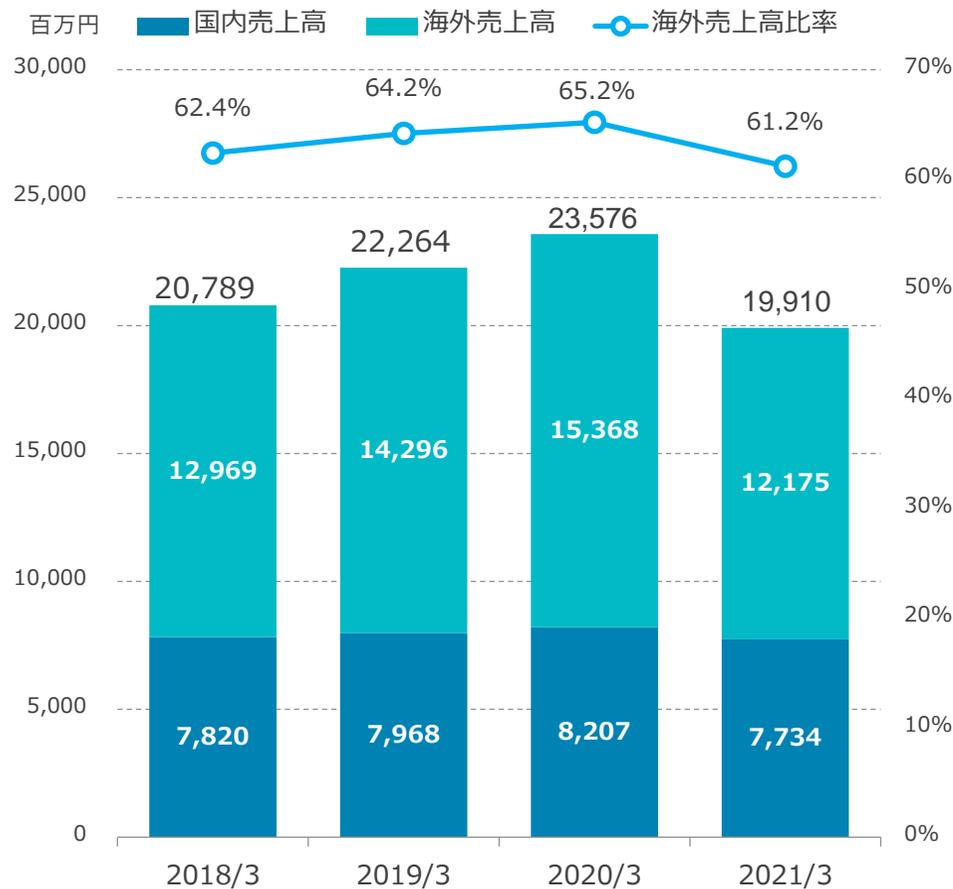


1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

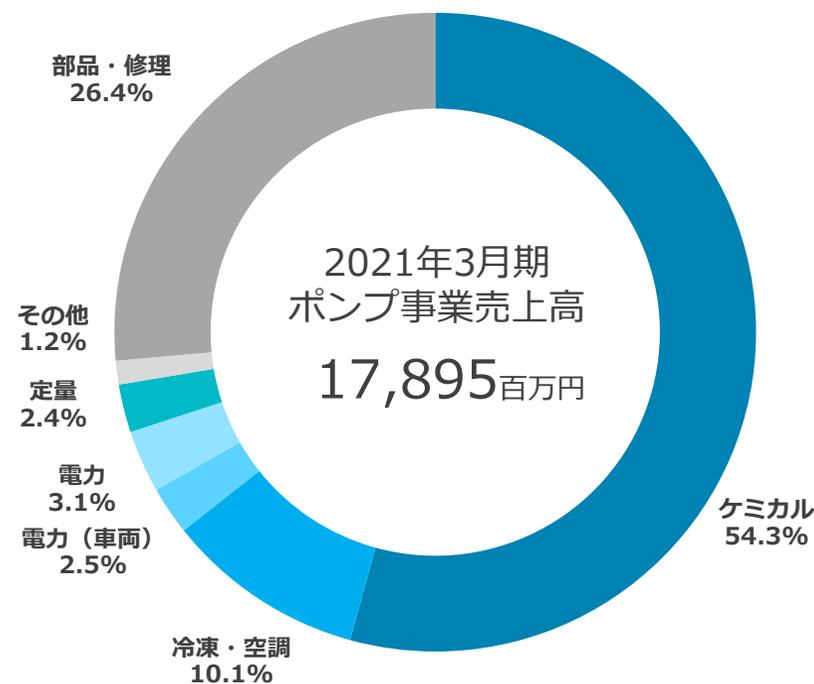
2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



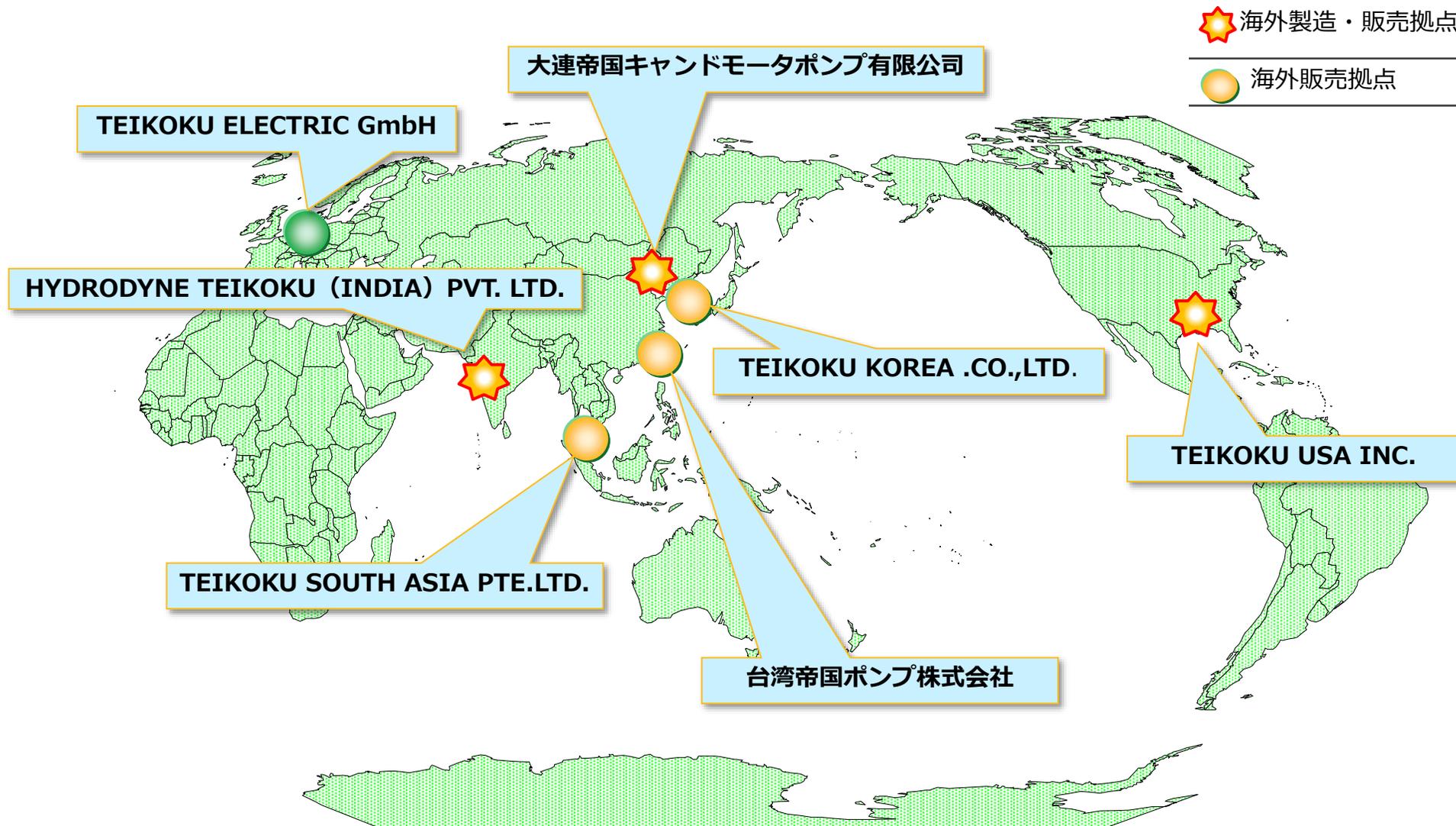
- 売上高の約90%は、「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

過去業績の推移



	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高 (百万円)	19,311	20,789	22,264	23,576	19,910
営業利益 (百万円)	1,666	2,300	2,025	3,750	2,262
営業利益率 (%)	8.6	11.1	9.1	15.9	11.4
ROE (%)	4.9	6.1	4.1	12.2	8.4
ROA (%)	5.4	7.1	6.6	11.1	7.1
配当性向 (%)	26.4	26.8	46.7	22.5	30.5
受注高 (百万円)	18,146	21,723	24,893	22,234	19,418
受注残高 (百万円)	6,339	7,273	9,843	8,501	8,010

当社の海外展開



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンドモータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



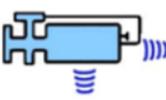
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース

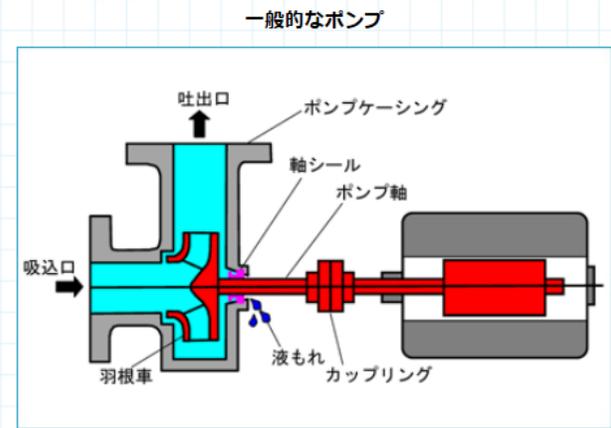


モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

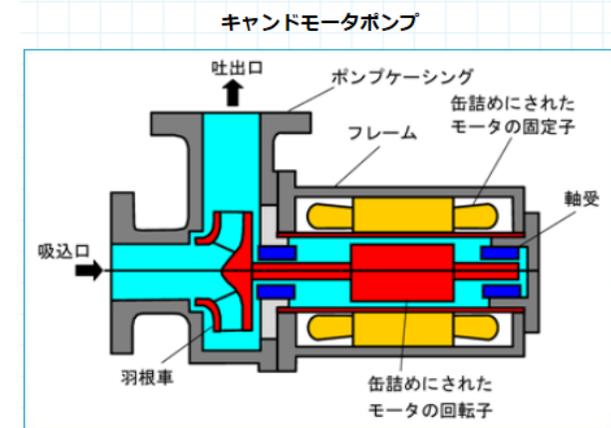
6 静かな運転音



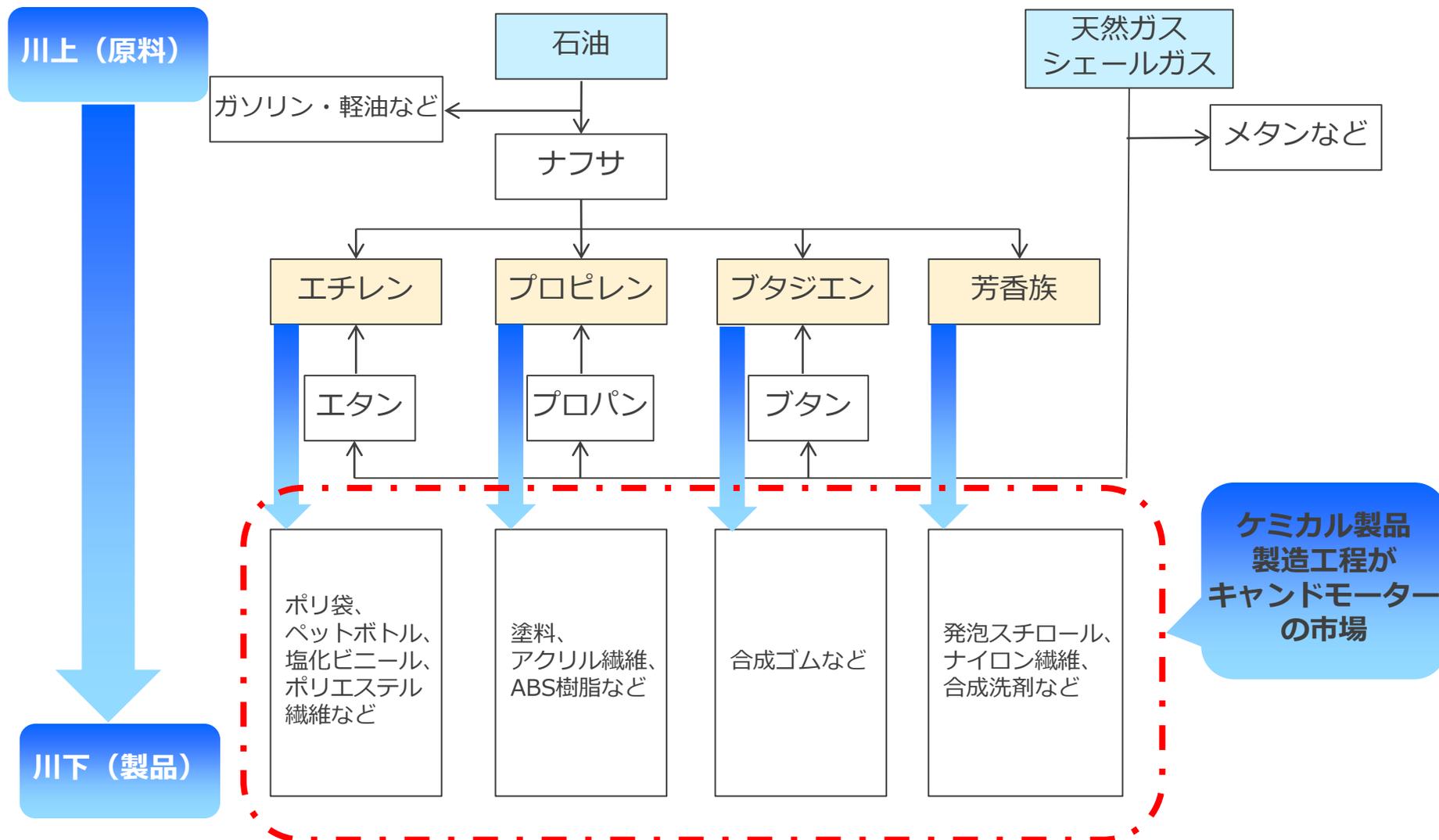
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。



軸シール部から漏洩してしまいます。



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

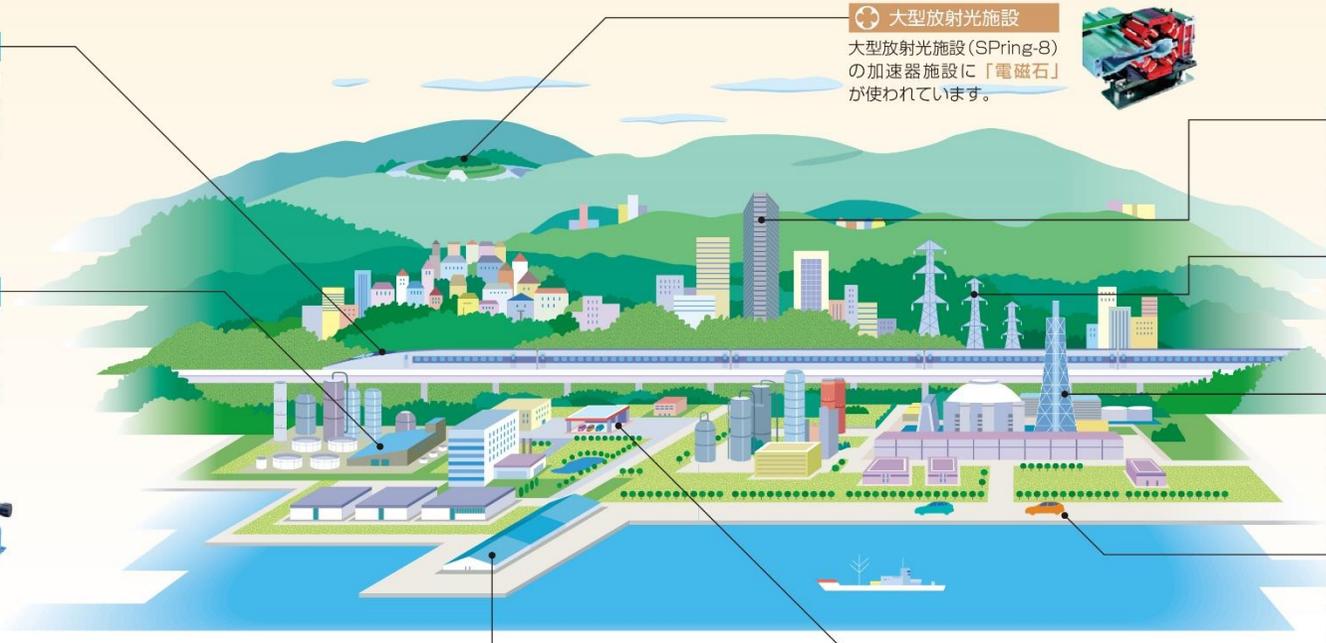
産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



★ 新幹線

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



⊕ 大型放射光施設

大型放射光施設 (SPring-8) の加速器施設に「電磁石」が使われています。



★ ビル・大型施設

吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。



★ 変電所

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



★ 発電所

原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。



◇ 自動車

「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもテイコクの技術が活かされています。



★ 工場

石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。



⊕ 倉庫

工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。



★ オートガススタンド

タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。



★ ポンプ事業 ◆ 電子部品事業 ⊕ その他

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようにお願いいたします。